

無線LANシステム

運用管理の簡略化で普及に勢い

ブームともいえるスマートデバイスの普及に伴い、無線LAN導入の動きが企業規模を問わず活発化している。ベンダー各社は導入の容易性と運用管理の効率化を競いながら需要拡大策を進めている。

文◎鳴海順文(本誌)

企業向け無線LAN市場が成長曲線を描いている。IT調査・コンサルティング会社であるアイ・ティ・アールの調査によれば、同市場の2011年度の出荷金額は142億円にのぼり、前年度比46.4%も増加した。勢いは今年に入ってから衰えることがなく、2012年度も同28.2%増と高い伸びが見込まれている。

最大の要因として考えられるのは、キャリアによる無線LAN基地局の大増設と、スマートフォン／タブレット端末(スマートデバイス)を業務利用する企業が急増していることだ。

もともと無線LANはLAN配線が不要になりオフィスレイアウトの自由度が増すこと、自席や会議室・ミーティングスペースなど場所を問わず

PC作業が行えるといったメリットが買われ導入が促進されてきたが、そもそも有線LANポート自体を備えていない新たなデバイスが急速に普及したことで、企業ニーズを底上げしているのだ。

さらにBYOD(個人所有端末の業務利用)への関心の高まりや、“フリーアドレス制”を導入する企業が増えていることなども背景に挙げられる。

ただし、企業が無線LANを導入するうえでの課題はまだ多い。導入時およびその後の管理運用負荷の増大やセキュリティを懸念する企業ユーザーの声は大きい。

無線LANベンダーは導入の容易化やセキュリティ対策の強化、運用負荷を軽減するための工夫を凝らすこ

とで、こういった状況を打破しようとしている。ここでは、主要無線LANベンダーの取り組みを紹介しながら、市場の新たな需要喚起への動きを見ていこう。

アルパネットワークス

BYODに適した認証基盤
精緻な識別で管理簡略

無線LAN大手アルパネットワークスの主力商材となっているのが、コントローラーを仮想化したアクセスポイント(AP)「Aruba Instant」による拡張性の高い無線LAN構築だ。

Aruba Instantを使うことで、1台のAPを「バーチャルコントローラー」に指定し、最大16台までAPを管理することができる。コントローラーが不要のため複数の拠点に容易に設置することができる。

さらに、ネットワーク管理ソフトウェア「Aruba AirWave」を使用し、複数のバーチャルコントローラーを一元管理することも可能だ。

アルパのシステムエンジニアリング部コンサルティングエンジニア・池田豊氏は、Aruba Instantの特長について「電波調整機能や冗長構成による運用など、従来はコントローラーにしかできなかった機能をAPだけでできる。コントローラーを擁する従来型よりも低コストになり、スムーズスタートに適している」と話す。

図表1 ClearPass Onboard機能の詳細

